

解答は別紙の解答欄に記入しなさい。

I 次の文章（イ～ハ）を読んで、文中の空欄（A～O）に当てはまる語句をそれぞれの語群の中から選び、1～9の数字を、また語群の中に適当な語句がない場合は0を、解答欄（解答用紙の右上）に記入しなさい。なお、同じ語句を繰り返し選んでもよい。

（イ） 1792年、ロシア使節（ A ）は、漂流民（ B ）を伴って根室に来航し、通商を要求した。幕府は、ロシアとの紛争を恐れて長崎への来航を認める信牌を持たせて帰国させた。1804年、ロシア使節（ C ）は、その信牌を携えて長崎に来航したが、幕府は、祖法をたてに通商を拒絶した。これを契機に、ロシア軍艦がカラフト・エトロフを攻撃し、紛争状態になった。1811年、幕府は、ロシア軍艦艦長（ D ）をクナシリで捕え、箱館・松前に監禁した。これに対して、ロシアは、幕府御用商人（ E ）を捕えたが、ロシア側の釈明もあって両者ともに解放され、事態は解決した。

- | | | | | | | | | | |
|---|--------|---|--------|---|---------|---|-------|---|------|
| 1 | ゴローウニン | 2 | ニコライ | 3 | プウチャーチン | 4 | ラクスマン | 5 | レザノフ |
| 6 | 高田屋嘉兵衛 | 7 | 大黒屋光太夫 | 8 | 蔦屋重三郎 | 9 | 中浜万次郎 | | |

（ロ） 1808年、（ F ）軍艦（ G ）号が長崎に強引に入港し、食料などを要求した後に退去するという事件があった。当時の長崎奉行は、この責任をとって自害した。幕府は、この事件を契機に沿岸警備体制を強化し、さらに1824年の（ H ）捕鯨船員の上陸・略奪事件を受けて、その翌年には異国船打払令を出した。1837年、日本人漂流民の送還のために浦賀に来航した（ I ）商船（ J ）号を、浦賀奉行所は異国船打払令によって砲撃した。

- | | | | | | | | | | |
|---|--------|---|-------|---|------|---|------|---|-------|
| 1 | アメリカ | 2 | イギリス | 3 | オランダ | 4 | フランス | 5 | ポルトガル |
| 6 | ノルマントン | 7 | フェートン | 8 | モリソン | 9 | リーフデ | | |

（ハ） 1840年、幕府は（ K ）国の沿岸警備を担当していた川越藩を財政的に援助するために、川越藩を豊かな（ L ）藩に、（ L ）藩を（ M ）藩に、（ M ）藩を川越藩にそれぞれ移すことを命令した。これを三方領知替えという。この命令は川越藩の松平家が将軍（ N ）の子を養子として幕府に働きかけた結果であると言われる。しかし、不利な扱いを受けた藩の領民の反対もあって、将軍（ O ）はこの命令の撤回を余儀なくされた。

- | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 安房 | 2 | 相模 | 3 | 肥前 | 4 | 大村 | 5 | 長岡 | 6 | 福井 | 7 | 家斉 |
| 8 | 家治 | 9 | 家慶 | | | | | | | | | | |

Ⅱ 次の文章（イ～ハ）を読んで、文中の空欄（A～T）に当てはまる語句をそれぞれ下記の語群の中から選び、1～4の数字を、語群の中に適当な語句がない場合は0を、解答欄（解答用紙の右上）に記入しなさい。

（イ） 592年、（ A ）天皇は豊浦宮で即位し、後に小墾田宮にうつった。以後、天皇（大王）の宮が（ B ）の地に次々と営まれると、（ B ）は次第に都としての様相を示すようになった。乙巳の変を機に、新政権が都を（ C ）に、また、（ D ）を機に（ E ）が大津宮にうつすことはあったが、結局、（ B ）には100年近く都が集中することとなった。

（ロ） 平城京は、唐の都（ F ）にならい、東西南北に走る道路で区画される（ G ）をもつ都市であった。平城京の北中央部には、天皇の居所、儀式や政務の場である大極殿・（ H ）、二官八省などの官庁がおかれた。京内には貴族から庶民の住宅がたちならんだ。平城宮に東接する地には、後に（ I ）となった藤原不比等の邸宅、左京四条二坊には（ J ）天皇から恵美押勝の名を賜り、（ K ）を施行するなど権勢をふるった藤原仲麻呂の邸宅、左京四条四坊には（ L ）年に『古事記』を完成させた（ M ）の邸宅など、五位以上の貴族の邸宅は五条大路から北にあったことが知られている。

（ハ） 桓武天皇は、平城京から（ N ）に遷都した。（ N ）では、造営の主導者（ O ）が暗殺される事件が起こるなど、政情不安が続き、10年後に平安京に遷都した。平安京も平城京とほぼ同じ構想で都市作りがなされたが、（ P ）を挟んで東西二寺が、平安宮の南に接して（ Q ）という禁苑があった。また、天皇の居所は10世紀後半に全焼して以来、たびたび火災にみまわれたため、貴族の邸宅などに移り住むようになり、（ R ）と呼ばれた。982年に成立した（ S ）著の『池亭記』には低湿で居住にふさわしくない（ T ）の荒廃した様子が描かれ、平安京の変質が窺える。

- | | | | |
|------------|---------|----------|-----------|
| A 1 舒明 | 2 推古 | 3 雄略 | 4 孝徳 |
| B 1 奈良 | 2 斑鳩 | 3 泊瀬 | 4 吉野 |
| C 1 藤原宮 | 2 難波宮 | 3 朝倉宮 | 4 恭仁宮 |
| D 1 白村江の戦 | 2 磐井の乱 | 3 藤原広嗣の乱 | 4 橘奈良麻呂の変 |
| E 1 古人大兄皇子 | 2 大海人皇子 | 3 山背大兄王 | 4 中大兄皇子 |
| F 1 洛陽 | 2 平城 | 3 長安 | 4 慶州 |
| G 1 班田制 | 2 条坊制 | 3 条里制 | 4 駅制 |
| H 1 朝堂院 | 2 冷然院 | 3 東宮 | 4 政所 |

I	1	薬師寺	2	東大寺	3	国分寺	4	興福寺
J	1	嵯峨	2	孝謙	3	聖武	4	元正
K	1	大宝律令	2	永徽律令	3	近江令	4	養老律令
L	1	710	2	712	3	713	4	720
M	1	稗田阿礼	2	大伴家持	3	淡海三船	4	山部赤人
N	1	由義宮	2	紫香樂宮	3	保良宮	4	長岡京
O	1	藤原良房	2	藤原菓子	3	藤原種継	4	藤原豊成
P	1	朱雀門	2	羅城門	3	建礼門	4	陽明門
Q	1	松林苑	2	白錦後苑	3	東院	4	神泉苑
R	1	殿下渡領	2	中宮	3	里内裏	4	後宮
S	1	慶滋保胤	2	三善為康	3	源信	4	鴨長明
T	1	上京	2	左京	3	右京	4	外京

Ⅲ 次の文章の空欄（A～E）に当てはまる語句を、漢字もしくは数字で記入しなさい。

『後漢書』には、1世紀ごろの倭が、多数の「国」に分かれていたことや、57年に後漢の皇帝（ A ）から金印を授かった奴国のような、有力な「国」の存在が記されている。『（ B ）』の『魏書』によると、2～3世紀の倭において、邪馬台国の女王を中心に、多くの「国」からなる連合が形成されたことがうかがえる。『宋書』には、それから二百年前後を経た、5世紀の倭王による南朝への朝貢の記録があり、西暦（ C ）年の倭王武の上表文からは、倭における王の支配力の拡大とともに、倭が皇帝の権威をかり、東アジアの国際関係の中で優位な立場を得ようとしていたことが読み取れる。武は（ D ）出土の鉄刀銘などにみえるワカタケル大王（雄略天皇）と考えられる。その後、対内・対外的に国家としての意識を高めていった倭は、『隋書』によると、607年に隋と対等の立場を主張する国書を送るが、これは皇帝（ E ）に無礼とされた。

IV 次の史料（イ～ヘ）を読んで、設問に答えなさい。なお、（イ～ロ）は明の、（ハ～ヘ）は朝鮮の史料である。

- （イ） 志布志の嶋津越後守臣氏久、日本の号・紀年を以て、陪臣の職を棄て、表を奉りて入貢す。分を越えた行礼、以て受納し難し。
- （ロ） a 日本国王源道義、使圭密等三百余人を遣はし、表を奉りて馬及び鎧冑・佩刀・瑠璃・水晶・硫黄・諸物を貢す……日本国王の冠服錦綺紗羅及び龜紐金印を賜る。
- （ハ） 対馬・一岐・上松浦等の地、人居は蕭条、土地は偏小かつ甚だ瘠薄にして、農業を事とせず、未だ饑饉を免れず、b 恣に作賊を行ひ、その心は奸暴たり。然れば対馬・一岐両島、海賊経由の地たり。もし我これを待するに礼を以てし、これを養ふに厚を以てすることを前日に加ふれば、則ち賊徒は悉皆順服せん。
- （ニ） 甲申の年、遣使来朝す。書に安芸州海賊大将藤原朝臣村上備中守国重と称す。図書を受く。
- （ホ） 対馬島 島は海東諸島の要衝にあり。諸酋の我に往来する者は必ず経るの地なり。皆、c 島主の文引を受けて後、乃ち来る。島主而下おのおの使船を遣はす。歳に定額あり。島は最も我に近くして貧甚しきを以て、歳賜の米を差すことあり。
- （ヘ） 対馬島の人、初め来りて d 三浦に寓さんと請ひ、互市・釣魚す。その居止及び通行は皆定むる処ありて、違越するを得ず。事畢れば則ち還る。縁に因りて留居し、漸く止まるもの繁滋なり。

（原漢文、一部省略・修正）

※陪臣：家来の、そのまた家来。	表：臣下が皇帝に奉る文書。	
蕭条：ものさびしいこと。	瘠薄：やせていること。	甲申の年：1464年。
図書：通交者に与えられた印章。	諸酋：日本の豪族。	文引：渡航認可証。

問1 下線部 a 「日本国王源道義」とは誰のことか、氏名を記しなさい。

問2 下線部 b のような行為をなす人々を、明や朝鮮では何と呼んだか、記しなさい。

問3 下線部 c 「島主」の地位を世襲したのは何氏か、記しなさい。

問4 下線部 d 「三浦」と総称される3つの港の名前をすべて漢字で記しなさい。

問5 （イ）と（ロ）の史料を対比すると、明がどのような者との通交を受け入れ、どのような者を受け入れなかったかという原則が浮かび上がってくる。しかし、（ハ～ヘ）の史料を見ると、朝鮮の対応は少し異なっていたことがわかる。通交を求めてやって来る日本人に対する姿勢は、明と朝鮮とでどのように異なるか、またそれはなぜか、80字以内で論述しなさい。

問6 地租改正は農村にどのような変化や影響を及ぼしたか、「旧税法」の時代と対比しつつ、140字以内で述べなさい。

[illegible]

7/7